

日本昆虫学会第65回大会

(2005)

プログラム



大会日程表

月日	時間	会場					
		A (D22教室)	B (D21教室)	C (D21教室)	D (D21教室)	E (D22教室)	F (D11教室)
9月23日 (金)	9:45~11:45	分類	系統	生活史	生態学		
	13:00~15:00	分類	系統	生活史	生態学		
	15:15~16:00	学会賞授与および受賞講演(総会会場、A206教室)					
	16:00~17:45	総会(総会会場、A206教室)					
	18:00~20:00	懇親会(岡山大生協南食堂、ピーチユニオン)					
9月24日 (土)	9:30~12:00	分類	多様性	生活史・行動学	生理・発生		
	13:00~14:15	分類	多様性	行動学	害虫防除		
	14:30~17:00	シンポジウム1(A会場)			シンポジウム2(F会場)		
	17:30~19:30	小集会					
		第7回昆虫の 季節適応談話 会	第4回穿孔性 昆虫を語る会	ハナバチ談話 会	地表性甲虫談 話会	双翅学会	第14回昆虫担 当学芸員協議 会総会
9月25日 (日)	9:30~11:45	分類	多様性・形態	行動学	害虫防除・進化		
	13:00~15:30	シンポジウム3(創立五十周年記念館)					
	16:00~18:00	小集会					
		国際社会性昆 虫学会日本地 区会小集会	日本鞘翅学会 特別例会	里山昆虫談話 会	日本半翅類学 会	食植性昆虫研 究会	昆虫分類学若 手懇談会シン ポジウム

会期：平成17年9月23日(金)～25日(日)

会場：岡山大学教育開発センター

後援：大原奨農会

目 次

大会日程	表紙
連絡事項	1
懇親会	3
学会賞授与式	3
日本昆虫学会第65回総会	3
各種会議のお知らせ	3
一般講演	
第1日目(9月23日)	4
第2日目(9月24日)	6
第3日目(9月25日)	8
学会賞受賞講演	10
小集会	
第2日目(9月24日)	10
第3日目(9月25日)	11
大会出席者名簿	13
会場案内	17
キャンパス案内	18

* * * * *

大 会 役 員

大会会長： 積木久明（岡山大・資生研）
副会長： 北村憲二（島根大・生物資源）
総 務： 那波邦彦（広島農技セ）、中筋房夫（岡山大院・環境）
幹 事： 本田計一（広島大・総合科学）、菊地淳志（近中四農研）、駒崎進吉（果樹研・ブドウ・カキ）、三浦一芸（近中四農研）、望月雅俊（果樹研・ブドウ・カキ）、奥島雄一（倉敷市自然史博）、大村 尚（広島大・総合科学）、斎藤 修（近中四農研）

* * * * *

日本昆虫学会第65回大会事務局

〒710- 0046 倉敷市中央2- 20- 1 岡山大学資源生物科学研究所
環境昆虫機能グループ（泉 洋平）
Tel 086- 434- 1219 Fax 086- 434- 1249
郵便振替口座：日本昆虫学会第65回大会実行委員会 01360- 0- 94046

連絡事項

1. 受付 9月23日(金)午前9時から、岡山大学教育開発センター玄関ロビーで行います。
2. 講演時間 一講演あたり15分(発表12分、質疑3分)を厳守願います。予鈴10分、本鈴12分、終鈴15分で時間をお知らせします。講演取り消しがあった場合は、時間を繰り上げず、空き時間とします。
3. 座長 発表終了者には、次の講演の座長をお願いします。午前および午後の最初の講演の座長は大会事務局で対応します。
4. 液晶プロジェクターによる発表 Microsoft Power Point[®]でファイルを作成し、コンパクトディスク(CD)に保存してください。発表の前にPCルームで、Power Point[®] 2003 for Windowsのインストールされたノートパソコン(OSはWindows XP)で、ご自身のプレゼンテーションの動作チェックを必ず行って下さい。講演される方は、ご自身の発表の一つ前の講演中にCDを会場内の係員にお渡しください。開始後は、講演者の指示に従って係員がパソコンを操作します。また、**申し出ていただければ、講演者ご自身でパソコンを操作することもできます。**講演終了直後にCDをお受け取りください。CDは650MBあるいは700MBのCD-Rのみとします(CD-RW、USBフラッシュメモリーは不可)。講演者の質疑応答中に次講演のCDを立ち上げますので、**質疑応答中の再投影はできません。**ファイルを作成する際には次頁の「Power Point[®]でファイルを作成する際の注意」をお読みください。
5. OHPによる発表 OHPの発表はご自身でお願いします。
6. 小集会 必要な物品は、小集会の始まる30分前までに大会本部に用意しておきます。運営はそれぞれの世話人の責任で行ってください。液晶プロジェクターを利用する場合、プロジェクターは貸し出しますが、ノートパソコンは貸し出しませんので、世話人の方がご用意ください。
7. 懇親会 9月23日(金:第1日目)午後6時より岡山大学生協ピーチユニオン2階食堂で行います。
8. 名札 受付で名札をお渡しします。名札カードで懇親会申込者を区別しますので、懇親会会場では必ず名札をお付けください。
9. 喫煙 建物内は全て禁煙です。屋外の指定の喫煙場所(灰皿のあるところ)でお願いします。
10. 駐車場 キャンパス内への車の乗り入れはできません。自家用車での参加はご遠慮願います。
11. 昼食 学会期間中(23日(金)~25(日))はピーチユニオンが営業しています。

Power Point®でファイルを作成する際の注意

OSやPower Point®に様々なバージョンが存在するため、投影時にトラブルが予測されます。本大会でプレゼンテーションに使用するコンピューターのOSはWindows® XP、アプリケーションはMicrosoft® Power Point® 2003です。デスク作成後、別のコンピューターのMicrosoft® Power Point® 2003 for Windowsにおいてファイルが正常に動作することを確認して頂けるとトラブルを最小限にできます。会場内に発表で用いるものと同スペックのコンピューターを置いたコーナーを用意しますので最終確認にお使いください。また、以下のことにご注意ください。

- 写真などの画像を使用する場合、Power Point®上で縮小、回転などをせずに、予め画像ソフト等で実際に使用するサイズ・解像度（100dpi程度）に縮小してからPower Point®に挿入してください。あまりファイルサイズの大きな画像を使用すると、表示できなかつたり、動作が極めて遅くなったりします。
- 動画を使用する場合、Windows Media Playerが標準で再生できる形式に限ります（AVIやmpeg）、Quick TimeやReal Playerは対応できません。AVIやDivXなどの特殊なcodecを使用することは避けてください。使用動画はCDと一緒にコピーし、リンク切れにご注意ください。
- コンピューター・液晶プロジェクター共に画面の解像度はXGA（1024×768）です。このサイズよりも大きい場合にはスライドの一部が表示できないことがあります。
- 原則として音をだすことは禁止します。
- 事前にご自身でウイルスチェックを行ってください。
- 緑色を背景として赤色の文字を映写するといったスライドは避けてください。

円滑な運営のために、CD - Rの取扱は以下の点にご注意ください。

- 1講演につき1枚のCDを用い、CDには講演用のファイル以外は入れないでください。
- ファイル名は「講演番号.ppt」としてください。特にMacintoshをご使用の方は拡張子を付けることを忘れないでください。
- CD - Rは注意して扱い、ケースに入れてお持ちください。CDは本体またはケースに講演番号とお名前をお書きください。不測の事態に備えてバックアップデータもお持ちください。
- CD - Rにデータを保存する時は、必ずWindows用のフォーマット（ISO9660）で、ファイナライズ（ソフト上ではCDのセッションを閉じるなどの表現が使われています）を行ってからにしてください。これを怠った場合ファイルが開けなくなります。

懇親会（第1日）

於 キャンパス内「ピーチユニオン」
9月23日（金） 18：00～20：00

学会賞授与式および受賞講演（第1日）

一般教育棟（A棟2階206号室） 9月23日（金）15：15～16：00

日本昆虫学会第65回総会（第1日）

一般教育棟（A棟2階206号室） 9月23日（金）16：00～17：30

各種会議のお知らせ

大会前日 9月22日（木）

- | | |
|-------------|--|
| 13：00～14：00 | 日本昆虫目録編集委員会（農学部 号館1階第1講義室） |
| 14：00～15：00 | 編集委員会（農学部 号館1階第2講義室）
自然保護委員会（農学部 号館1階中会議室）
電子化推進委員会（農学部 号館1階小会議室）
日本の昆虫編集委員会（農学部 号館1階第1講義室） |
| 15：00～15：30 | 幹事会（農学部 号館1階中会議室） |
| 15：30～18：00 | 評議委員会（農学部 号館1階第1講義室） |

一般講演

第1日目 (9月23日) 午前

時間	A会場	B会場	C会場	D会場
9:45	A101 大島康宏・矢田 脩(九大院・比文・生物体系) 熱帯アフリカ区の種を含むミスジチョウ亜族 <i>Neptina</i> の属分類の再検討(鱗翅目、タテハチョウ科)	B101 大槻章子・吉澤和徳・秋元信一(北大院・農・昆虫体系) 日本列島におけるカミムラカワゲラの系統地理	C101 杉本博之・井上祐一(山口県林業指導センター) シイタケ菌床施設に発生したムラサキアツバの生態について	D101 加藤 学・小野誉幸・藤善博人(株)山田養蜂場) 養蜂資源植物:マメ科ヘアーベッチの主要蜜源としての可能性
10:00	A102 岩崎浩明・矢田 脩(九大院・比文・生物体系) スマトラ西方沖島嶼(メンタワイ群島)に分布するマルバネシロチョウ属 <i>Cepora</i> の分類学的再検討(チョウ目:シロチョウ科)	B102 齋藤歩希・鹿糠美紀子・小島純一・北出 理(茨城大学理学部) 日本産アシナガバチ属の系統関係解析と生物地理学的考察	C102 平井規央・谷川哲朗・石井 実(大阪府大院・生環・昆虫) シルビアシジミ大阪空港個体群の幼虫の休眠性と <i>Wolbachia</i> 感染の影響	D102 倉橋伴知・市川俊英(香川大・農・昆虫) アカメガシワ幼植物の花外蜜腺を利用する昆虫
10:15	A103 金沢 至(大阪市自然博)・新川 勉(放送大学)・宮武頼夫・村上 豊(アサギマダラを調べる会)・白 種哲(順天大学校農科大学) 韓国のアサギマダラは日本・台湾のものと同じか? マダラチョウ類の分子系統樹	B103 櫻井厚司(神戸大・自然科学)・内田健志・内藤親彦(神戸大・農) <i>Thrinax</i> 属同胞種間におけるミトコンドリア <i>Cox I</i> 遺伝子の遺伝的距離と種形成に関する考察	C103 河野勝行(野菜茶研) モンシロチョウの八重山諸島における定着性について	D103 中澤隆太・岩田隆太郎・上田眞吾・片瀬隆雄(日大・生物資源) 幼虫の体組織と食入材の窒素安定同位体比の比較によるルリボシカミキリ幼虫の窒素源の推定
10:30	A104 上田恭一郎(北九州市立自然史・歴史博物館) シンジュキノカワガの分類学的再検討	B104 梶本孝行(九大院・生資環・昆虫)・多田内 修(九大院・農学院・昆虫) 分子データに基づいた日本産ヒメハナバチ属 <i>Andrena</i> の系統関係の推定	C104 橋本健一(千葉県立衛生短期大学生物学研究室) モンシロチョウの光周反応の地理的変異とその遺伝的特性	D104 徳田 誠・深津武馬(産総研・生物機能工学) エゴノネコアシアブラムシによって誘導された「エゴの遅れ花」に見られる形態変異
10:45	A105 吉松慎一(農環研)・榎下町鉦敏(鹿大)・行徳直久(八女農改晋セ)・上和田秀美(鹿児島農試)・佐藤嘉一(鹿児島林試)・坂巻祥孝(鹿大) わが国においてタケノコを食害する鱗翅類	B105 杉本美華(九大・熱研セ・学振PD)・三枝豊平(福岡市)・長谷部光泰(基生研・生物進化)・西山智明(金沢大・学際科学実験センター) ミノガ科の系統解析と退行的進化の考察(鱗翅目)	C105 山崎一夫(大阪市立環境科研)・初宿成彦(大阪市立自然史博)・杉浦真治(森林総研) ヨモギの茎にゴールを形成する2種のヒメハナノミの生態	D105 湯川淳一(九大)・上門隆洋(鹿児島県病害虫防除所) シロダモタマバエ(ハエ目:タマバエ科)の内部寄生蜂 <i>Gastrancistrus</i> sp. (ハチ目:コガネコバチ科)の羽化時期と初期ゴール内の寄主1齢幼虫の存在時期との同時性
11:00	A106 水川 瞳・広渡俊哉(大阪府大院・農生・昆虫)・橋本里志(愛知県) 前翅に帯状斑紋をもつスイコバナガ科の未記載種とその近縁種について	B106 三枝豊平(福岡市) 雄交尾器に基づく狭義のタテハチョウ科の亜群の単系統性(Lepidoptera, Papilionoidea)	C106 上地奈美(沖縄農試)・湯川淳一(九大) 日本産ハリオタマバエ属タマバエ類(ハエ目:タマバエ科)の生活史パターンと寄主範囲	D106 伊藤嘉昭(愛知県日進市) ミカンコミバエの根絶前後におけるウリミバエ密度の変化
11:15	A107 李 峰雨・広渡俊哉(大阪府大院・農生・昆虫)・黒子浩(阪南市) 日本産 <i>Heliozela</i> 属の(鱗翅目、ツヤコガ科)3新種について	B107 小田切顕一・矢田 脩(九州大学大学院比較社会文化研究院) ミトコンドリア <i>CoI</i> および <i>ND5</i> 遺伝子を用いたキチョウ <i>Eurema</i> 属 <i>sari</i> 群の系統解析 遺伝子およびコドンポジションごとに最適塩基置換モデルを用いたベイズ法の有効性	C107 原口 大・小濱継雄・大野 豪・上里卓己・浦崎貴美子・清水優子(沖縄県ミバエ対策事業所) 久米島におけるイモゾウムシの発生状況と寄主植物	D107 井貝紀幸・肘井直樹(名大院・生命農・森林保護) ミズナラ・コナラ上のゴールをめぐる昆虫群集
11:30	A108 那須義次(大阪府立食とみどりの総合技術センター) ワシヤシントメヒメハマキのタイプ発見とその正体および日本産 <i>Rhyacionia</i> 属(鱗翅目、ハマキガ科)について	B108 矢後勝也(東大院・理・進化系統)・新川 勉(放送大・教養・自然)・上田恭一郎(北九州市立自然史・歴史博物館)・間野隆裕(豊田市矢作川研究所)・渡辺康之(尼崎市)・上島 励(東大院・理・進化系統) 夜行性チョウ類・シャクガモドキは本当にチョウか? 分子に基づいたシャクガモドキ上科の系統的位置	C108 大野 豪・原口 大・小濱継雄(沖縄県ミバエ対策事業所) 沖縄県久米島におけるサツマイモノメイガ(鱗翅目:ツトガ科)の寄主植物と発生消長	D108 工藤慎一・安尾隆二・赤城嘉宣(鳴門教育大・学校教育) ヒラタヤスデの個体群構成

第1日目 (9月23日) 午後

時間	A会場	B会場	C会場	D会場
13:00	A109 村尾竜起(九大院・生資環・昆虫)・多田内 修(九大院・農学院・昆虫) 日本産コハナバチ亜属チビコハナバチ群(ハチ目:コハナバチ科)の分類学的研究	B109 箭内 緑・星川和夫(鳥根大・生物資源) 隠岐諸島におけるアオハナムグリの地理変異	C109 田中陽介(茨城大・理・系統研) オンバツタの体色は背景色によって変わるのか	D109 梶村 恒(名古屋大学大学院・生命農学・森林保護) 種子食性キクイムシはアンプロシア菌で繁殖できる
13:15	A110 三田井克志(九大院・生資環・昆虫)・多田内 修(九大院・農・昆虫) 日本産キマダラハナバチ属 <i>ruficornis</i> 種群(ハチ目:ミツバチ科)の分類学的研究	B110 奥島雄一(倉敷市自然史博)・島田 孝(隠岐自然館) 隠岐のジョウカイボン科甲虫、特にジョウカイボン族について	C110 前野浩太郎・竹田真木生(神戸大・自然科学)・田中誠二(農生研・生活史制御) サバクバツタの相変異:相特異的な幼虫体色の誘導メカニズム	D110 林 良信・北出 理(茨城大・理) ヤマトシロアリの幼形生殖虫による単為生殖と単為発生個体について
13:30	A111 三田敏治(東京農業大学)・寺山 守(東京大学)・山根正気(鹿児島大学) 日本より初めて発見されたハチ目の1科, Megalynidae について	B111 日和住政・馬場弘孝・草桶秀夫(福井工大・工・環境生命) ミトコンドリアDNA塩基配列に基づくヒメボタル個体群の系統分化	C111 田中誠二(独行人・農生研・生活史)・朱 道弘(中南林業科技大・昆虫) 中国大陸のトノサマバツタの季節適応:休眠と日本個体群との遺伝的親和性	D111 北出 理(茨城大・理) 韓国産キゴキブリの腸内共生原生動物組成
13:45	A112 小西和彦(北農研)・柴田鏡江(森林総研) 日本で採集された Megalynidae(ハチ目)	B112 細谷忠嗣・荒谷邦雄(九大・院・比文) 琉球列島におけるクワガタムシ科の分子生物地理	C112 安藤喜一(弘前市) オオカマキリは不休眠卵で越冬する	D112 松村正哉(九州沖縄農研)・徳田 誠(産総研)・遠藤信幸(九州沖縄農研) イネ科植物を著しく萎縮させるフタテンチビヨコバイ:近年の発生と被害の拡大
14:00	A113 Nguyen T.P.Lien(ベトナム国立生態学生物資源研究所)・斎藤歩希・小島純一(茨城大理学部)・J.M.Carpenter(アメリカ自然史博物館) ベトナムの社会性カリバチ:その分類の現状と生物地理学的重要性	B113 館 卓司(九大・熱研)・嵩 洪(九大・比文) ブランコヤドリバエ族の高次分類群間の分子系統学的研究(双翅目:ヤドリバエ科)	C113 黒須詩子(新座市)・Chuan-Chan Wang・How-Jing Lee(台湾大学)・青木重幸(立正大学) ツノアブラムシ2種の初期ゴールに見られるアウトサイダーについて	D113 田中 寛・樽井良太・柴尾 学(大阪食とみどり技セ) コナガはクレオメの害虫になりうるか?
14:15	A114 Ubaidillah Rosichon(インドネシア科学院ポゴール動物学博物館)・小島純一(茨城大理学部) インドネシアにおけるヒメコバチ亜科(Eulophinae)寄生蜂の分類学研究的現状について	B114 我那覇智子・野原真知子(九大院・生資環)・湯川淳一(九大)・山内 智(青森県立郷土館) ヨモギとオオヨモギにゴールを形成する <i>Rhopalomyia</i> 属タマバエ類の寄主間および地理的変異	C114 香川清彦・高橋 滋・村井 保(宇都宮大・農) コマツナギアブラムシの不完全生活環型の発見	D114 藤山直之(北教大・函館・生物)・片倉晴雄(北大・院理・生物科学) ヤマトアザミテントウにおける成虫と幼虫のパフォーマンスの関係
14:30	A115 細石真吾・緒方一夫(九大・熱帯農学研究センター) アジアにおけるシリアゲアリ属の分類学的再検討(ハチ目:アリ科)	B115 坂神たかね・大野 豪・小濱継雄(沖縄ミバエ) 沖縄県で発見されるミカンコミバエ(<i>Bactrocera dorsalis</i> Complex)はどこからやって来たの? マイクロサテライト解析による検討	C115 岡本智恵(九大院・生資環)・山口大輔(九大・農)・湯川淳一(九大) ヘクソカズラの防除資材候補、2種のノミハムシ(甲虫目:ハムシ科)の生態学的基礎情報	D115 中野 進(広島修道大学人間環境学部) ツシママダラテントウ(<i>Epilachna chinensis</i>)の分布・生活史・生態
14:45	A116 塘 忠顕(福島大・共生システム理工)・高倉未来(福島大・教育)・岡島秀治(東京農大・農) 日本から再発見された <i>Stephanothrips miscanthi</i> (総翅目:クダアザミウマ科)の生息場所	B116 村路雅彦(農業生物資源研究所) コセアカアメンボにおける“ニセ”のミトコンドリアDNA塩基配列	C116 森山 実・沼田英治(大阪市大・院理・生物地球) クマゼミの卵休眠を調節する温度反応	D116 田中幸一・田中昌子(農環研) ブタクサハムシの白眼型:遺伝様式の推定と行動研究への応用

第2日目 (9月24日) 午前

時間	A会場	B会場	C会場	D会場
9:30	A201 吉武 啓・加藤俊英・伊藤元己(東大院・総合文化・広域システム) クロツヤサルゾウムシ属(コウチュウ目:ゾウムシ科)の分類学的再検討と系統的位置の推定	B201 川上 靖(鳥取県立博物館) セトウチフキバツタにおける後腿節下面の色彩の地理的変異 住民参加型調査「カメラ付き携帯電話でしらべる鳥取県の昆虫地理」の成果として	C201 北村憲二・四宮誠一(鳥根大学生物資源) 鳥取県大山におけるゴミムシ・オサムシ類の標高分布と季節変動並びに生活史に与える標高の影響	D201 松山 茂(筑波大・院・生命環境科学)・笹川浩美(国際科学振興財団・東京都神経研) 社会性ハチ目昆虫の情報化学物質 ハリナシバチ頭部抽出物の分析
9:45	A202 小島弘昭(九大・博物館)・Idris Abd.Ghani(マレーシア国立大) ヤシ類の訪花性甲虫 ゾウムシ類を中心とした熱帯アジアでの多様性	B202 鈴木邦雄・安江 梓・松村洋子(富山大・理・生物) イタヤハマキチョッキリ(鞘翅目、オトシブミ科)の揺籃形成戦略と揺籃構造の変異性	C202 松尾一樹・宮永龍一(鳥根大学・生物資源) ムモンミズカメムシの生活史と有翅型成虫の出現について	D202 田中一裕(宮城学院女子大・一般教育) オオヒメグモの凍結開始温度を決める氷核物質の特性
10:00	A203 沢田佳久(兵庫県博・昆虫) キイロチョッキリに関する知見	B203 久松正樹(茨城県自然博物館) 茨城県八溝山麓における野生ハナバチ相	C203 吉岡誠人・宮永龍一(鳥根大学・生物資源) コムズムシの生活史と水域の利用様式	D203 菊川 茂・林 美保・牧田康平・中村泰彦(富山大・理・生物) ノシメマダラメイガの休眠測定機構 スケルトン光周期に対する反応
10:15	A204 平野 聖(九大・生資環) クモゾウムシ亜科における大顎の運動方向と食性との関係(甲虫目:ゾウムシ科)	B204 郷右近勝夫(東北学院大・工)・渡邊満徳(大阪市)・庄司 敦(仙台市) 仙台湾荒浜海岸砂浜における訪花昆虫相	C204 山口豪志(茨城大学理学部)・Rosichon Ubaidillah(ボゴール動物学博物館)・小島純一(茨城大学理学部) オーストラリア産チビアシナガバチの1種 <i>Ropalidia plebiana</i> の寄生蜂とされていたオナガコバチ(Trymidae) <i>Amoturoides breviscapus</i> の真の宿主と寄生率について	D204 新津修平(東京都立大・院理・自然科学) 培養系からみたオオミノガにおける翅退化プロセスの内分泌制御
10:30	A205 鶴 智之(北大院・農・昆虫体系学) 日本産モンヒメハナノミ属 <i>Mordellina</i> (コウチュウ目、ハナノミ科)の分類学的再検討	B205 森島玲奈・遠藤知二(神戸女学院大・環境バイオ)・西本 裕(小林聖心女子) 管住性ハチ類相と景観構造の関係:流域間比較による解析	C205 松本吏樹郎(大阪自然史博) ヤガタフクログモを寄主とする <i>Schizopyga circulator</i> の特異な寄生習性	D205 大村 尚・本田計一(広島大・総合科学)・朝岡 潔・井上 尚(農業生物資源研) タテハチョウ成虫口吻の味覚応答~腐敗食物を利用するための適応
10:45	A206 後藤秀章(森林総研・九州)・濱口京子・中島忠一・所 雅彦(森林総研) カシノナガキクイムシ <i>Platypus quercivorus</i> の地域変異	B206 末吉昌宏(学振海外特別研究員) 双翅目における森林伐採による林縁効果	C206 笹川浩美(国際科学振興財団FAIS・東京都神経研)・門脇辰彦(名古屋大・院・生命農学)・松山 茂(筑波大・院・生命環境科学) ミツバチ類の社会性行動と異物認識に関する2、3の知見	D206 土屋真利子・前川清人(富山大学・理・生物) ヤマトシロアリにおける兵隊による新規兵隊分化の抑制機構の解析
11:00	A207 野村周平(国立科博) 日本における <i>Dimerini</i> ヤツメアリツカムシ族(和名新称)の発見とシュモクアリツカムシ上族の独立性(コウチュウ目、ハネカクシ科、アリツカムシ亜科)	B207 石谷正宇((株)建設環境研究所) 我が国の草地性ゴミムシ相の成立にブラキストン線は関与したのか?	C207 石川善大・松浦 誠・山田佳廣(三重大・生物資源) ヤマトアシナガバチにおける分業:優位行動と羽化順との関係	D207 水野さやか(富山大・理・生物)・越川滋行(北大・院地球環境)・三浦 徹(北大・院地球環境)・前川清人(富山大・理・生物) ヤマトシロアリの後胚発生に伴う成虫特異的な器官の発達
11:15	A208 高橋直樹(九大院・農・生防研)・大場裕一(名大院・生命農) 黄白色の体色をもつツマキジョウカイ属 <i>Malthinus</i> (コウチュウ目:ジョウカイボン科)の1種について	B208 北畠 駿・前藤 薫(神戸大・昆虫科学)・牧野俊一・井上大成・田中 浩(森林総研) 里山林の二次遷移にともなうコマユバチ科寄生蜂のアバダンスの変化	C208 伊藤恵美・山田佳廣(三重大・生物資源学部) カマバチにおける自己他者識別能力の有無に応じた過寄生戦略の変化	D208 吉田昭弘・野田彰子(JT生命誌研究館)・本田計一(広島大・総科)・加藤義臣(国際基督教大・教養)・松本英子(大阪市)・三枝豊平(福岡市) 鱗翅類3種の後翅における尾状突起の形成
11:30	A209 澤田義弘(北大・総博・COE研究員) 日本産ムクゲキノコムシ科(コウチュウ目)の未記録属について	B209 久保木 謙・緒方一夫(九大・熱帯農学研究センター) 孤立林のアリ相	C209 川崎やよい・宮永龍一(鳥根大学・生物資源) シロスジカタコハナバチの巢内行動	D209 小林幸正(首都大学東京・都市教養学部・生命科学)・渡辺 友(横浜市)・鈴木浩文(日野市) アキマドボタル <i>Pyrocoelia rufa</i> の胚発生の概要と胚休眠

第2日目 (9月24日) 午後

時間	A会場	B会場	C会場	D会場
13:00	A210 塘 研(筑波大・生命環境科学)・町田龍一郎(筑波大・菅平高原実験センター) ラクダムシ <i>Inocellia japonica</i> Okamoto の胚帯形成(昆虫網・脈翅目・ラクダムシ亜目)	B210 佐藤重穂(森林総研四国)・前藤 薫(神戸大)・宮田弘明(高知県森技セ)・杉村光俊(トンボと自然を考える会) 四万十川流域の林業地域における漂流性トンボ類の長期モニタリングの試み	C210 牧野俊一(森林総研)・山内博美(名古屋市生活衛生センター) ネジレバネがスズメバチコロニーの生産性に与える影響の解析	D210 A.Kalyebi・S.Nakamura (JIRCAS) Development and life history of the parasitoid fly, <i>Drino inconspicuoidea</i> (Diptera: Tachinidae)
13:15	A211 山本 直・広渡俊哉(大阪府大院・農生・昆虫)・山本優(環境科学) 西表島産 <i>Polypedilum</i> 属 <i>Tripodura</i> 亜属(双翅目・ユスリカ科)の分類学的新知見	B211 林 晋平・星川和夫・宮永龍一(島根大学・生物資源)・川野敬介(豊田ホテルの里ミュージアム) 水田の「ぬるめ」が水生動物群集に与える影響	C211 井上牧子・遠藤知二(神戸女学院大・人間科学) ツチバチ類の宿主探索行動	D211 Nguyen Ngoc Bao Chau・Kaoru Maeto (Lab.Insect Science, Kobe Univ.) Superparasitism and host discrimination in a solitary endoparasitoid <i>Meterous pulchricornis</i> (Hymenoptera, Braconidae)
13:30	A212 須島充昭(神奈川県博) 日本産 <i>Schwenckfeldina</i> 属(クロバネキノコバエ科)の1未記載種について	B212 向井康夫・石井 実(大阪府大院・農生・昆虫) 稲作水系におけるタガメの生活場所利用	C212 伊藤文紀(香川大・農)・後藤彩子(愛媛大・連合農学研究科)・Johan Billen(ベルギー・ルーベン大) トカラウロコアリの女王による産雌性処女生殖	D212 前藤 薫(神戸大・農・昆虫科学)・上里卓己(沖縄県ミバエ対策事業所) イモゾウムシとアリモドキシウムシに寄生する <i>Bracon</i> 属未記載種(コマコバチ科)
13:45	A213 屋富祖昌子(琉大・農)・戸田正憲(北大・低温研) タロイモショウジョウバエ属(Genus <i>Colocasiomyia</i> , <i>Drosophilidae</i>) の分類学的再検討	B213 山尾あゆみ(和歌山大院・システム工学・景観昆虫) 溜池の環境保全における両生半翅類昆虫群集の意義に関する生態学的研究	C213 平川真太郎・小笠原貴子・河村真由・伊藤文紀(香川大・農) 餌としてのアリ:ニホンアマガエルを用いた検討	D213 上里卓己・小濱継雄(沖縄県ミバエ対策事業所)・前藤 薫(神戸大・農) イモゾウムシとアリモドキシウムシの幼虫に外部寄生する <i>Bracon</i> 属コマコバチの分布、寄主範囲、寄生率
14:00	A214 植村直幸・轟 洪(九大・院・比文) 雄交尾器と一齢幼虫形態による <i>Mikia</i> 属(双翅目:ヤドリバエ科)の分類の再検討	B214 西原昇吾・鷲谷いつみ(東大・農・保全生態) オオクチバスに捕食されるため池の水生昆虫と池干しによるバス駆除後の回復	C214 市川俊英(香川大・農・昆虫) ボクトウガ幼虫における活動期の孔道と繭状越冬室	D214 香川理威・前藤 薫(神戸大院・昆虫科学) 農地環境におけるヤコンオサムシの成虫と幼虫で異なる生息地利用

シンポジウム 1 (A会場)

シンポジウム 2 (F会場)

14:30	<p align="center">「分子からみた昆虫の生活」</p> <p>世話人: 本田計一</p> <p>SA201 嶋田 透・大門高明・田口知宏・勝間 進(東大院・農) 三田和英(農業生物資源研)・S.G.Kamita・B.D.Hammock (カリフォルニア大・デービス) 鱗翅目昆虫のゲノムに存在する水平移動型遺伝子と発生・行動の制御</p> <p>SA202 尾崎克久・中山忠宣・山田 歩・Y.Salahun・吉川 寛(JT生命誌研) アゲハチョウの寄主選択に關する産卵刺激物質受容システムの解析</p> <p>SA203 釘宮聡一(京大・生態研) チャバネゴキブリ類の配偶行動に關するフェロモン</p> <p>SA204 本田保之・本田計一・大村 尚(広島大・生物圏科学) マダラチョウの繁殖戦略におけるアルカロイド摂取の意義</p>
-------	--

<p align="center">「外来昆虫への対応を考える」</p> <p>主 催: 日本昆虫学会自然保護委員会 世話人: 石井 実</p> <p>SF201 石井 実(大阪府大院・生命) 外来生物の引き起こす問題と「外来生物法」</p> <p>SF202 緒方一夫(九大・熱研セ) 「特定外来生物」としてのアリ類</p> <p>SF203 五箇公一(環境研) 導入昆虫の法的対応について</p> <p>SF204 荒谷邦雄(九大院・比文) 外来コガネムシ上科甲虫の生態系リスク評価</p>
--

第3日目 (9月25日) 午前

時間	A会場	B会場	C会場	D会場
9 : 30	A301 戸田正憲 (北海道大学低温科学研究所) 汎用生物分類検索システム (BioCIS) の開発	B301 井上大成 (森林総研) 日本のチョウ類の衰退理由	C301 江田信豊 (南山大学総合政策学部)・浜 栄一 (長野県松本市)・関 舜次 (長野県高山村) 日本産ミドリシジミ3種の活動性 (鱗翅目:シジミチョウ科)	D301 白井洋一 (農環研) コナガの年間発生量 (1990年~2004年の傾向)
9 : 45	A302 矢田 脩 (九大院・比文)・王 敏 (華南農大)・上田恭一郎 (北九州自然史歴史博)・広渡俊哉 (大阪府大院・生命環境)・小田切顕一・中山裕人・大島康宏・馬田英典・岩崎浩明 (九大院・比文)・矢後勝也 (東大院・理学) 中国海南島の昆虫インベントリー調査 TAIIV プロジェクトの中間総括	B302 谷川哲朗・石井 実 (大阪府大院) 石砂山に導入された外来個体群ギフチョウの定着可能性	C302 萩原康夫 (昭和大学)・渡辺通人 (河口湖フィールドセンター) クロオオアリとミヤマシジミの共生関係のレベルについて	D302 田淵 研 (森総研北海道)・守屋成一・水谷信夫・伊藤健二 (中央農研) 改造型ムシダス (自動計数機能付き昆虫誘殺装置) を用いたホソヘリカメムシ誘殺消長
10 : 00	A303 山田量崇・広渡俊哉 (大阪府大院・農生・昆虫) 東南アジアの <i>Physopleurella</i> 属 (カメムシ目:ハナカメムシ科)	B303 松本和馬 (森林総研・多摩森林科学園) 石砂山のギフチョウ個体群の現状	C303 井口 豊 (生物科学研究所) コクワガタの日周活動について	D303 秋元信一 (北大・農・生物生態学体系学) ゴール形成アブラムシ、ニレイガフシ <i>Kalteubachiella japonica</i> における遺伝的分化
10 : 15	A304 中谷至伸 (農環研) 淀川河川敷で発見されたツヤカスミカメムシの未知種 (半翅目:カスミカメムシ科)	B304 畑田 彩 (里山科学館越後松之山「森の学校」キョロ口)・松本和馬 (森林総研・多摩森林科学園) ギフチョウ幼虫は旧葉でも正常に成育できるのか?	C304 本郷儀人 (京大・理・動物行動) カブトムシの雄にはなぜ二型がある?	D304 神戸 崇・秋元信一 (北大院・農・生物生態学体系学) エンドウヒゲナガアブラムシの無性生殖集団の遺伝的多様性
10 : 30	A305 石川 忠 (東京農大・農) 日本産 Tribelocephalinae 亜科 (カメムシ目:サシガメ科) の分類学的研究	B305 井上欣勇 (滋賀県大・現在大阪府大院)・近 雅博 (滋賀県大) 木津川堤防における外来種ホソオチョウと在来種ジャコウアゲハの個体群動態	C305 鈴木誠治 (北大院・農・生物生態学体系学)・永野昌博 (森の学校キョロ口)・小林憲生 (北大・博物館) コクロシデムシの配偶行動と繁殖成功: 配偶システムの検証	D305 丸山宗利 (国立科学博物館・学振PD)・Birgit C.Schlick-Steiner・Florian M.Steiner・Christian Stauffer (Universität für Bodenkultur)・秋野順治 (農業生物資源研究所) ケアリ属における社会寄生の進化 (ハチ目:アリ科:ヤマアリ亜科)
10 : 45	A306 田中宏卓・天野 洋 (千葉大・園芸・応動昆) 新たに発見されたハカマカイガラムシ科の未記載種 (半翅目:ハカマカイガラムシ科)	B306 荒谷邦雄・山本幸太・細谷忠嗣・マハディメナクバルダウッド (九大・院・比文) ペットとして移入された本土カブトムシの在来亜種オキナワカブトムシに対する侵略性の検証	C306 田辺 力 (徳島県博)・曾田貞滋 (京大・院理・動物生態) ヤスデにおける交尾器の鍵と鍵穴	D306 西本 裕 (小林聖心女子学院)・内藤親彦 (神戸大・農) カタアカスギナハバチの3種半数体核型の混在地における多型頻度と置換機構
11 : 00	A307 松本浩一 (東京農業大学)・宮武頼夫 (関西大) ハリギリに寄生する日本未記録のキジラミ2種の分布と生活史	B307 山田大邦 (札医大・医・物理)・宮下洋子 (札医大・医・生物)・片桐千仞 (北大・低温研・生化)・秋元信一 (北大院・農・生態体系) トドノネオオワタムシ有翅成虫 (ユキムシ) の綿毛の構造と機能	C307 一木良子 (JIRCAS)・中原雄一 (生物研)・中村 達 (JIRCAS) ノコギリハリバエのシュノーケル呼吸法~ 口器を使って寄主の気管を取り込むハエ幼虫	D307 桑島優和 (北大・院理・生物)・平井喜幸 (北大・院歯)・片倉晴雄 (北大・院理・生物) 近縁二種の植食性テントウムシにおける生殖隔離
11 : 15	A308 樋口敏幸 (九大院・生資環)・紙谷聡志 (九大院・農学院) 紀伊半島産クワキヨコバイ属 (カメムシ目:ヨコバイ科) に関する新知見	B308 片桐千仞 (北大・低温研) 山田大邦・宮下洋子 (札幌医大医学部)・秋元信一 (北大院・農) ユキムシ (トドノネオオワタムシ) の綿毛の組成 2	C308 上宮健吉 (久留米大医・生物) ハエ類の配偶行動における基質信号の普遍性、特にマメハモグリバエ属について	D308 大島一正・吉澤和徳 (北大院・農・昆虫体系)・Madan K Shrestha・Vasanta K Thapa (Tribhuvan University, Nepal) クルミ科とツツジ科を寄主とする <i>Acrocercops leucophaea</i> (鱗翅目) におけるホストレース形成

第3日目 (9月25日) 午前(つづき)

時間	A会場	B会場	C会場	D会場
11:30		B309 小濱継雄(沖縄県ミバエ対策事業所) アリモドキゾウムシとイモンゾウムシ幼虫の簡便な識別法	C309 菊地淳志・世古智一・三浦一芸(近畿中国四国農業研究センター) ダイズ圃場におけるマルカメムシの分布と産卵部位	D309 鶴崎展巨(鳥取大・地域・生物) 産雌単為生殖のザトウムシ数種における性的2型の拡大
11:45		B310 大庭伸也(愛媛大院・農)・立田晴記(国立環境研究所・生態リスク評価研究室)・佐々木正己(玉川大・農) タガメ幼虫期の捕獲形質の成長パターンは餌条件に影響されるか?	C310 山本和典(香川大学・農)・頭山昌郁(崇徳高校)・岡上真之(イカリ消毒)・伊藤文紀(香川大学・農) 広島県廿日市市周辺におけるアルゼンチンアリの森林への侵入状況と在来アリ類へ及ぼす影響	

シンポジウム3 (公開) (創立五十周年記念館)

13:00	<p>「昆虫学の未来を担う少年たち」</p> <p>主催：第65会大会実行委員会 世話人：奥島雄一 後援：岡山県教育委員会、岡山市教育委員会、倉敷市教育委員会 協賛：財団法人 マツダ財団</p> <p>SH301 轟 洪(九大院・比文：日本昆虫学会会長)基調講演「昆虫を知ること」 SH302 奥島雄一(倉敷市自然史博)進め!むしむし探検隊 SH303 東 佑一朗(倉敷市立万寿小6年)ブラックライトに集まった昆虫 SH304 小川弘展(倉敷市立玉島東中2年)エダナナフシ(ナナフシ目, ナナフシ科)の食草実験 SH305 松田隆嗣(岡山県立岡山大安寺高2年)岡山県のイチジクヒトリモドキについて SH306 末長晴輝(岡山県立倉敷天城高2年)分布拡大する!?オキナワコアオハナムグリ SH307 千田喜博(岡山県立玉島高3年)倉敷市向山における土壌性甲虫の調査 SH308 丸山宗利(国立科学博物館)社会人の虫屋に何が出来るか? 若者虫屋どうしの交流とその重要性 SH309 神保宇嗣(国立科学博物館)若手育成とインターネット:交流の場としての活用例 SH310 永幡嘉之(米沢市)昆虫の名前を調べるにあたってのインターネット利用の問題点</p>
-------	---

学会賞受賞講演（総会会場、A206教室、A棟2F）第1日目

9月23日（金） 15:15～16:00

S101 SOTA, T., HAYASHI, M. and IWAI, D.: Phylogeography of the leaf beetle *Chrysolina virgata* in wetlands of Japan inferred from the distribution of mitochondrial haplotypes.

S102 TOMISAWA, R. and AKIMOTO, S.: Host range and host preference of a flea weevil, *Orchestes hustachei*, parasitizing aphid galls.

小集会（第2日）

9月24日（土）17:30～19:30

第7回昆虫の季節適応談話会（A会場）

世話人：沼田英治・渡 康彦

AW201 中村圭司（岡山理科大）種子食性カメムシ類の光周反応と寄主植物

AW202 渡 康彦（芦屋大・教育）タマネギバエの羽化時計 温度周期の重要性

AW203 富岡憲治・坂本智昭（岡山大院・自然）谷口典慎（山口大・理）タンボコオロギ幼虫発育の光周制御機構

第4回穿孔性昆虫を語る会（B会場）

世話人：梶村 恒

BW201 大石理子・佐藤宏明（奈良女子大・理）寄主植物の早期落葉を抑制する潜葉性昆虫

BW202 福本浩士（三重県松阪地方県民局）コナラ属の種子生産と種子食性昆虫の相互関係について

BW203 小島弘昭（九大・博物館）ゾウムシ類の進化：口吻の獲得と寄主植物との共進化

ハナバチ談話会（C会場）

世話人：多田内 修

未定

地表性甲虫談話会（D会場）

世話人：丸山宗利

DW201 磯野昌弘（森林総研）生物多様性調査の省力化 オサムシ科甲虫を例とした3つの事例

DW202 平松新一（白山市）白山における地表性ゴミムシ類の分布特性（コウチュウ目：オサムシ科、ホソクビゴミムシ科）

双翅学会 (E会場)

世話人：鳶 洪

EW201 鳶 洪 (九大院・比文) 第6回双翅目国際会議・福岡について

第14回昆虫担当学芸員協議会総会 (F会場)

世話人：金沢 至・初宿成彦・松本吏樹郎

テーマ：管理運営問題対策

FW201 松本吏樹郎 (大阪自然史博) 指定管理者制度への対応 大阪市立自然史博物館の場合

FW202 坂本 充 (広島市昆虫館) 広島市昆虫館における指定管理者制度への対応策

FW203 奥島雄一 (倉敷市自然史博) 地方博物館の生き残り戦略

FW204 三時輝久 (山口県博) 山口県における指定管理者制度の導入状況について

FW205 大原賢二 (徳島県博) 徳島県の文化施設への指定管理者導入の考え方

小 集 会 (第3日)

国際社会性昆虫学会日本地区会小集会 (A会場)

世話人：小島純一

テーマ：カリバチにおける社会性進化は二化性の生活史に基づくのか？

AW301 小島純一 (茨城大・理)・K.M. Pikett (アメリカ自然史博)・斎藤歩希 (茨城大・理) アシナガバチ属 (*Polistes*) の直近祖先は単独性でも、二化性でもなかった；カリバチにおける社会性進化の二化性起源説への反論

AW302 佐山勝彦 (森林総研・北海道) アシナガバチ属のコロニーおよび個体の成長からみたカースト分化

AW303 斎藤歩希 (茨城大・理) Nguyen T.P. Lien (ベトナム国立生態学・生物資源研)・小島純一 (茨城大・理)・James M. Carpenter (アメリカ自然史博) 巣内越冬するベトナムのハラホソバチ (*Stenogastrinae*) *Eustenogaster* 属の1種の生活史と社会性について

AW304 地区会事務連絡

日本鞘翅学会特別例会 (B会場)

世話人：大林延夫

未定

里山昆虫談話会 (C会場)

世話人：石井 実・立川周二

- CW301 立川周二・古山 暁(東京農大)用水路のシンボルであるハグロトンボの生息環境と繁殖戦略
- CW302 松本陽介・立川周二・岡島秀治(東京農大)・井上大成(森林総研)里山の管理がチョウ類群集に及ぼす影響
- CW303 市川憲平(姫路市水族館)放棄田を利用した里の自然再生と止水性水生昆虫の定着

日本半翅類学会 (D会場)

世話人：友国雅章・林 正美

未定

食植性昆虫研究会 (E会場)

世話人：小林憲生・太田有理

- EW301 小林知里(京大院・人環)吊り下げるべきか?切り落とすべきか? 揺籃作製に代替戦術を用いるエゴツルクビオトシブミ
- EW302 大島一正(北大院・農)寄主転換に伴う種分化の遺伝的背景と系統的背景
クルミホソガ種群 *Acrocercops leucophaea* complex (鱗翅目)を例に

昆虫分類学若手懇談会シンポジウム (F会場)

世話人：三田井克志・村尾竜起・小島弘昭

テーマ：直翅系昆虫の系統と進化

- FW301 吉澤和徳(北大院・農)・Kevin P. Johnson (Illinois Nat. Hist. Survey) 18S rRNA の2次構造に基づくアライメントで明らかになったジュズヒゲムシの系統的位置と特異的な分子進化
- FW302 上村佳孝(北大院・農)ハサミムシ類の交尾器形態の多様性と進化
- FW303 前川清人(富山大・理)ゴキブリとシロアリの系統関係と進化

大会参加者名簿

(8月1日現在、アルファベット順)

は懇親会申込者、名前の後の記号は講演番号 (発表者のみ)

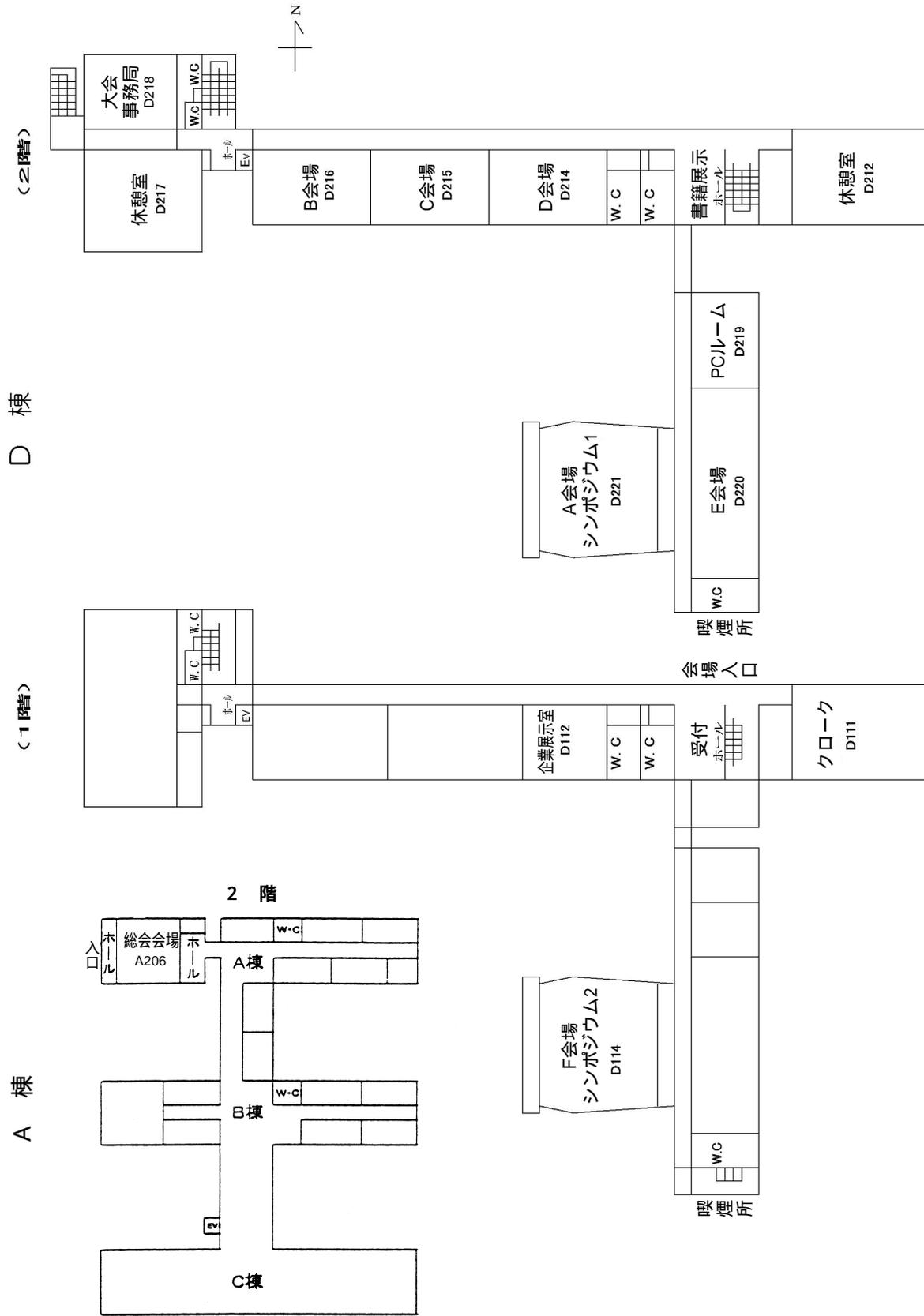
A				堀 繁久	北海道開拓記念館	
	阿部 芳久	京都府大院・農		細石 真吾	九大・熱研七	A115
	秋元 信一	北大・農	D303	細谷 忠嗣	九大院・比文	B112
	安藤 喜一	弘前市	C112	I		
	青木 重幸	立正大・経済		市川 憲平	姫路市水族館	CW303
	青野 孝昭	倉敷市自然史博		市川 俊英	香川大・農	C214
	荒谷 邦雄	九大院・比文	B306, SF204	一木 良子	JIRCAS	C307
	東 祐一郎	倉敷市立万寿小	SH303	市田 忠夫	青森県農業総合研究セ	
D				井貝 紀幸	名大院・生命農	D107
	土肥 由佳	大阪女子大・理		井口 豊	生物科学研	C303
E				井上 欣勇	大阪府大院・生命環境	B305
	遠藤 知二	神戸女学院大・人間科学		井上 牧子	神戸女学院大・人間科学	C211
F				井上 大成	森林総研	B301
	藤山 直之	北教大・函館	D114	井関 高平	大阪府大院・理	
	福本 浩士	三重県松阪地方県民局	BW202	石原 道博	大阪府大院・理	
G				石井 実	大阪府大・生命環境	SF201
	我那覇 智子	九大院・生資環	B114	石川 忠	東京農大・農	A305
	五箇 公一	環境研	SF203	石川 善大	三重大・生物資源	C207
	後藤 秀章	森林総研・九州	A206	石谷 正宇	(株)建設環境研究所	B207
	郷右近 勝夫	東北学院大・工	B204	石崎 剛	東京農大院・農	
H				磯野 昌弘	森林総研	DW201
	萩原 康夫	昭和大	C302	伊藤 恵実	三重大・生物資源	C208
	原田 雅之	所沢市		伊藤 文紀	香川大・農	C212
	原口 大	沖縄三バ工	C107	伊東 憲正	小平市	
	橋本 健一	千葉県衛生短期大	C104	伊藤 嘉昭	日進市	D106
	橋本 恵	九大院・比文		岩崎 浩明	九大院・比文	A102
	畑田 彩	里山科学館越後松之山	B304	岩田 隆太郎	日大・生物資源	
	林 正美	埼玉大・教養		泉 洋平	岡山大・資生研	
	林 晋平	島根大・生物資源	B211	J		
	林 良信	茨城大・理	D110	神保 宇嗣	国立科博	SH309
	林 靖彦	川西市		K		
	樋口 敏幸	九大院・生資環	A308	香川 清彦	宇都宮大・農	C114
	平井 規央	大阪府大院・生環	C102	香川 理威	神戸大院・自然	D214
	平川 真太郎	香川大・農	C213	Karyebi Andrew	JIRCAS	D210
	平松 新一	白山市	DW202	梶村 恒	名大院・生命農	D109
	平野 聖	九大院・生資環	A204	上村 佳孝	北大・農	EW302
	平田 慎一郎	きしわだ自然資料館		金沢 至	大阪市自然史博	A103
	広渡 俊哉	大阪府大院・生命環境		神戸 崇	北大院・農	D304
	久松 正樹	茨城県自然博	B203	金子 順一郎	沼田市	
	本田 計一	広島大・総合科学		上宮 健吉	久留米大・医	C308
	本田 保之	広島大院・生物圏科学	SA204	片桐 千仞	北大・低温研	B308
	本郷 儀人	京大院・理	C304	加藤 学	(株)山田養蜂場	D101

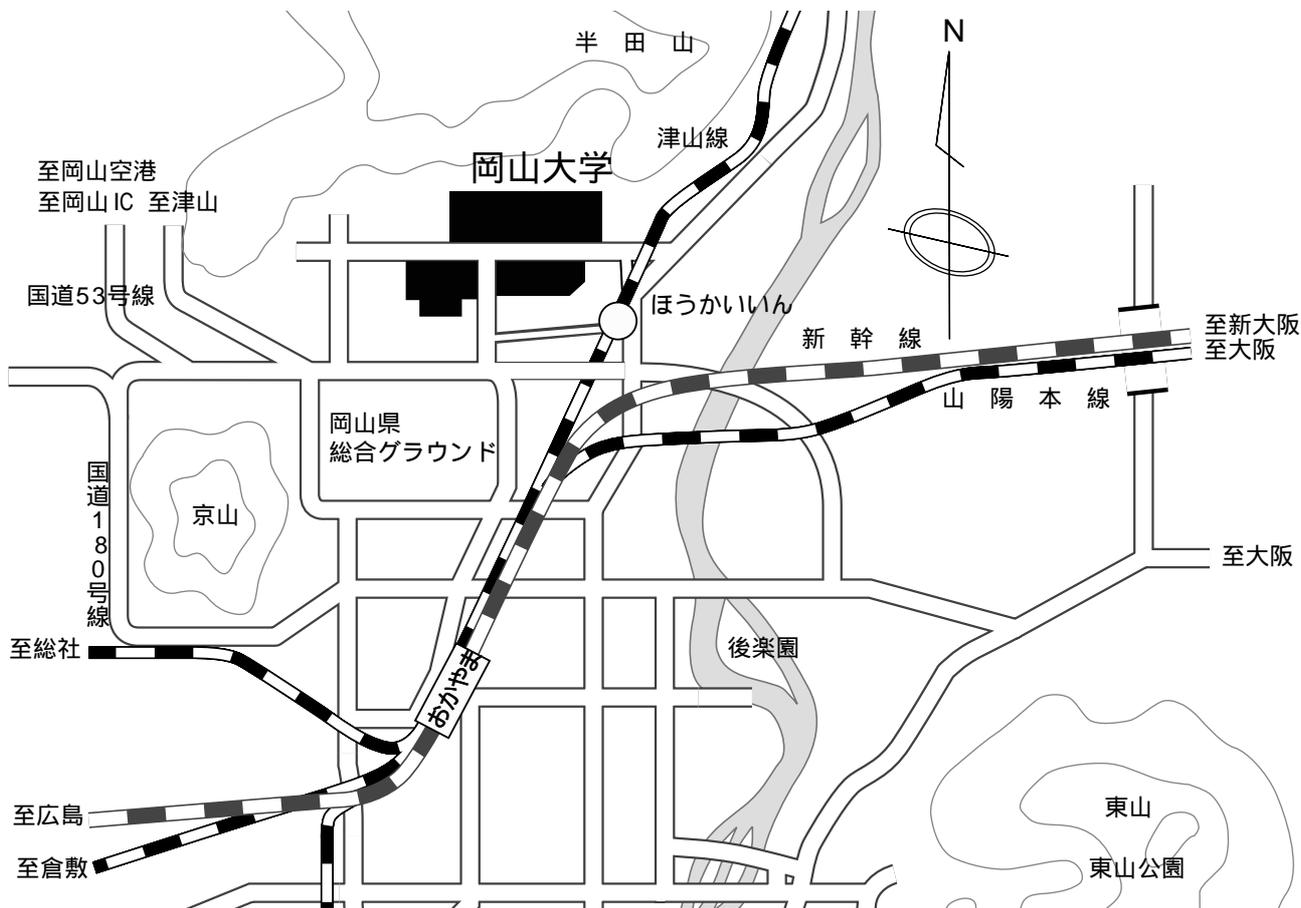
川上 靖	鳥取県博	B201	松山 茂	筑波大院・生命環境	D201
河上 康子	高槻市		三田 敏治	東京農大	A111
川崎 やよい	島根大・生物資源	C209	三田井 克志	九大院・生資環	A110
菊地 淳志	近中四農研	C309	三時 輝久	山口県博	CW204
菊川 茂	富山大・理	D203	三浦 一芸	近中四農研	
北畠 駿	神戸大院・自然科学	B208	宮永 龍一	島根大・生物資源	
北出 理	茨城大・理	D111	宮竹 貴久	岡山大院・環境	
北村 憲二	島根大・生物資源	C201	宮武 頼夫	関西大	
小林 知里	京大院・農	FW301	水川 瞳	大阪府大院・農生	A106
小林 憲生	北大・総合博		水野 さやか	富山大・理	D207
小林 幸正	首都大東京・都市教養	D209	望月 雅俊	果樹研・ブドウ・カキ	
小濱 継雄	沖縄ミバ工	B309	百野 直美	広島市森林公園	
小島 弘昭	九大・博	A202, BW203	森本 桂	九大・農	
小島 純一	茨城大・理	A113, AW301	森島 玲奈	神戸女学院大・環境バイオ	B205
駒崎 進吉	果樹研・ブドウ・カキ		守屋 成一	中央農研	D302
小西 和彦	北農研	A112	森山 実	大阪市大院・理	C116
小汐 千春	鳴門教育大		向井 康夫	大阪府大院・農生	B212
江田 信豊	南山大・総合政策	C301	村路 雅彦	農業生物資源研	B116
河野 勝行	野菜茶試	C103	村尾 竜起	九大院・生資環	A109
久保 陽子	大阪女子大		N		
久保木 謙	九大・熱研セ	B209	那波 邦彦	広島県農業技術セ	
工藤 慎一	鳴門教育大・学校教育	D108	永幡 嘉之	米沢市	SH310
釘宮 聡一	京大・生態研	SA203	内藤 親彦	神戸大・農	
倉橋 伴知	香川大・農	D102	中原 直子	東京農大・農	
黒須 詩子	新座市	C113	中村 圭司	岡山理科大	AW201
草桶 秀夫	福井工大・工	B111	中野 進	広島修道大	D115
桑原 大樹	大阪府大・生命環境		中筋 房夫	岡山大院・環境	
桑島 優和	北大院・理	D307	中谷 至伸	農環研	A304
M			中澤 隆太	日大・生物資源	D103
前川 清人	富山大・理	EW303	那須 義次	大阪食とみどり技セ	A108
前野 浩太郎	神戸大・自然科学	C110	Nguyen Ngoc Bao Chau	神戸大院・自然科学	D211
前藤 薫	神戸大・農	D212	新穂 千賀子	兵庫県立大	
牧野 俊一	森林総研	C210	新津 修平	都立大院・理	D204
間野 隆裕	豊田市		西原 昇吾	東大・農	B214
丸山 宗利	国立科博	D305, SH308	西池 真美	大阪女子大	
正木 進三	弘前市		西川 勝	アース・パイオケミカル(株)	
増子 恵一	専修大・経営		西本 裕	小林聖心女子学院	D306
松田 隆嗣	岡山県立大安寺高	SH305	野村 周平	国立科博	A207
松本 浩一	東京農大	A307	野中 俊文	(株)建設技術研究所	
松本 和馬	森林総研・多摩	B303	沼田 英治	大阪市大院・理	
松本 吏樹郎	大阪市自然史博	C205, CW201	O		
松本 陽介	東京農大院・農	CW302	小田切 顕一	九大院・比文	B107
松村 正哉	九州沖縄農研	D112	緒方 一夫	九大	SF202
松尾 一樹	島根大・生物資源	C202	小川 弘展	倉敷市立玉島東中	SH304
松浦 健二	岡山大院・環境		岡島 秀治	東京農大・農	

岡本 智恵	九大院・生資環	C115	諏訪 正明	北大・農	
奥島 雄一	倉敷市自然史博	B110, SH302, CW203	鈴木 邦雄	富山大・理	B202
小野 知洋	金城学院大		鈴木 誠治	北大院・農	C305
小野田 繁	鹿屋市		T		
大場 信義	横須賀市博		舘 卓司	九大・熱研セ	B113
大庭 伸也	愛媛大院・農	B310	立川 周二	東京農大・農	CW301
大原 賢二	徳島県博	CW205	多田内 修	九大・農	
大村 尚	広島大・総合科学	D205	高橋 直樹	九大院・生防研	A208
大野 豪	沖縄ミバ工	C108	田辺 力	徳島県博	C306
大島 一正	北大院・農	D308, FW302	田中 宏卓	千葉大・園芸	A306
大島 康宏	九大院・比文	A101	田中 寛	大阪食とみどり技セ	D113
太田 有理	北大院・理		田中 幸一	農環研	D116
大槻 章子	北大・農	B101	田中 一裕	宮城学院女子大	D202
大和田 守	国立科博		田中 誠二	農生研	C111
尾崎 克久	JT 生命誌研	SA202	田中 陽介	茨城大・理	C109
R			谷田 光弘	相模原市	
李 峰雨	大阪府大院・農生	A107	谷川 哲朗	大阪府大院・生命環境	B302
李 哲敏	大阪府大院・生命環境		立岩 邦敏	大阪府大・生命環境	
S			戸田 正憲	北大・低温研	A301
三枝 豊平	福岡市	B106	徳田 誠	産総研・生物機能工学	D104
斎藤 歩希	茨城大・理	B102, AW303	富岡 憲治	岡山大院・自然	AW203
斎藤 修	近中四農研		友国 雅章	国立科博	
坂神 たかね	沖縄ミバ工	B115	土屋 真利子	富山大・理	D206
坂本 充	広島市昆虫館	CW202	積木 久明	岡山大・資生研	
坂本 憲一	豊島区		鶴 智之	北大院・農	A205
櫻井 厚司	神戸大・自然科学	B103	鶴崎 展巨	鳥取大・地域	D309
笹川 浩美	国際科学振興財団	C206	塘 研	筑波大・菅平高原実験セ	A210
佐々治 寛之	福井県丸岡町		塘 忠顕	福島大・共生システム理工	A116
佐藤 宏明	奈良女子大・理	BW201	U		
佐藤 真理子			Ubaidillah Rosichon	茨城大・理	A114
佐藤 重穂	森林総研・四国	B210	上地 奈美	沖縄農試	C106
沢田 佳久	兵庫県博	A203	上田 恭一郎	北九州市自然史博	A104
澤田 義弘	北大・総博	A209	植村 直幸	九大院・比文	A214
佐山 勝彦	森林総研・北海道	AW302	上野 俊一	国立科博	
千田 善博	岡山県立玉島高	SH307	上野 高敏	九大・生防研	
鳶 洪	九大院・比文	SH301, EW201	上里 卓己	沖縄ミバ工	D213
嶋田 透	東大院・農	SA201	碓井 徹	上尾市	
白井 洋一	農環研	D301	W		
園田 昌司	岡山大・資生研		渡 康彦	芦屋大・生命工学	AW202
未長 晴輝	岡山県立倉敷天城高	SH306	Y		
未吉 昌宏	学振海外特別研究員	B206	屋富祖 昌子	琉球大・農	A213
杉本 博之	山口県林業指導セ	C101	矢後 勝也	東大院・理	B108
杉本 美華	九大・熱研セ	B105	山田 大邦	札幌医大・医	B307
楢本 孝行	九大院・生資環	B104	山田 量崇	大阪府大院・農生	A303
須島 充昭	神奈川県博	A212	山田 佳廣	三重大・生資	

山岸 健三	名城大・農	
山口 豪志	茨城大・理	C204
山本 博子	堺市	
山本 和典	香川大院・農	C310
山本 直	大阪府大院・農生	A211
山尾 あゆみ	和歌山大院・システム工学	B213
山崎 一夫	大阪市環境科研	C105
山内 健生	宇和島市	
矢野 宏二	山口市	
矢田 脩	九大院・比文	A302
箭内 緑	島根大・生物資源	B109
横井 智之	京大院・農	
吉田 昭広	JT 生命誌研	D208
吉田 英哉	岡山大・資生研	
吉田 正隆	徳島市	
吉原 一美	岡山市	
吉松 慎一	農環研	A105
吉岡 誠人	島根大・生物資源	C203
吉武 啓	東大院・総合文化	A201
吉安 裕	京都府大院・農	
吉澤 和徳	北大・農	EW301
湯川 淳一	九大	D105

会場（講義棟）案内図





大会会場（岡山市）までの交通経路

航空機を利用した場合

岡山空港から岡山駅行きバスに乗り岡山大学前下車（所要時間約25分）。

JRを利用した場合

JR岡山駅西口 - 岡山大

- ・岡電バス岡山理科大行き [47系統] に乗車の上、岡大西門で下車（190円，約15分）。

JR岡山駅東口 - 岡山大学

- ・4番バス乗り場：岡電バス 妙善寺行き [17系統] に乗車して岡大西門下車（220円，約25分）。

- ・7番バス乗り場：岡電バス スポーツセンター経由津高営業所行き [6系統] 乗車，岡山大学筋下車（190円，約15分）。

- ・13番バス乗り場：中鉄バス 免許センター行き，53号線経由国立病院行き乗車，岡山大学筋下車（190円，約15分）。

タクシーは岡山駅西口から岡山大学（約15分，1200円程度）。